



除染土処分に関する学生ワークショップ
実行委員会 副委員長
久保田 苺吹

目次

- 除染土の最終処分と再生利用
- 除染土処分の課題
- 除染土処分に関する学生ワークショップ概要
- 参加学生
- 学生ワークショップ当日の様子
- 活動報告会概要
- 各班の活動紹介
- 今年度の活動まとめ
- 来年度の活動目標
- メディア案内

除染土の最終処分と再生利用

◎ 除去土壌等の放射能濃度分布



主な減容技術



濃度の低い土壌

再生利用

適切な施行・維持管理(公共工事等)したうえで再生利用



減容等を図った上で

県外最終処分



中間貯蔵施設で保管されている、福島県内で発生した除去土壌(本ワークショップでは除染土と呼称)は、**2045年3月までに県外で最終処分**することが法律で明記



最終処分の負担を減らすため、放射能濃度の低い土壌(約3/4)を**再生利用**

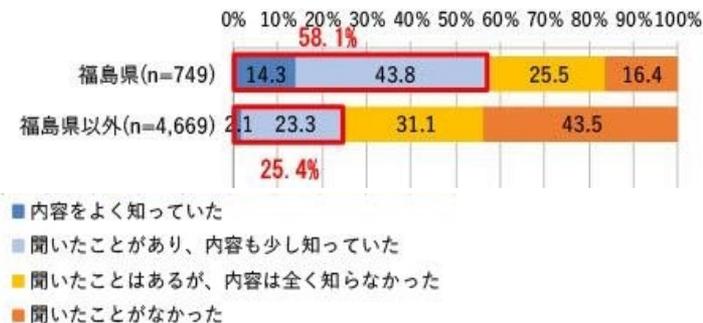
出典:環境省

http://iosen.env.go.jp/chukanchozou/material/pdf/removed-soil_recycling_2304.pdf

除染土処分の課題

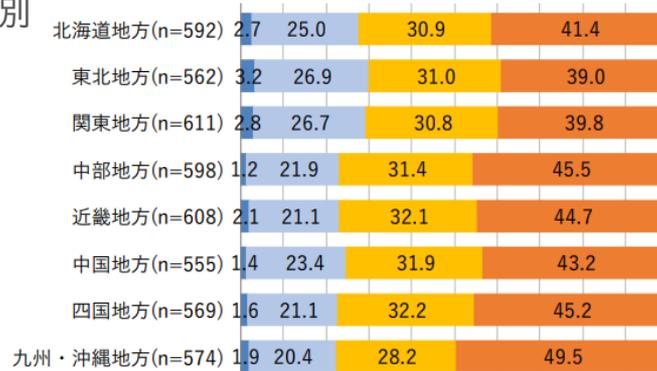
県外最終処分するという法律に対する認知度

【令和4年度】



→福島県内外で認知度に大きな差

地方別



出典：環境省

http://josen.env.go.jp/chukanchozou/facility/effort/investigative_commission/pdf/proceedings_230330_08.pdf

〈災害記憶消滅世代の認知度〉

15～18歳(震災当時2～5歳)世代で、県外最終処分を「知っていた」のは県内外ともに3割(東京：31.2%、福島：28.5%、2023-2024)

→県内外の認知差がなく、災害記憶消滅世代とそれ以上の世代との間に「記憶の断絶」

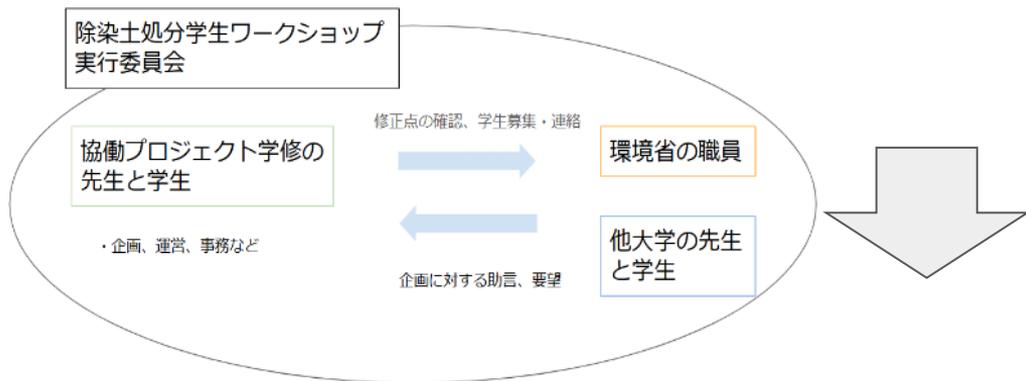
出典：東日本大震災・原子力災害伝承館、国立大学法人東京大学

https://www.fipo.or.jp/lore/lore_cms/wp-content/uploads/2024/05/災害記憶消滅世代調査プレスリリース（東日本大震災・原子力災害伝承館）.pdf

除染土処分に関する学生ワークショップ概要

<実行委員会>

- ・「除染土処分に関する学生ワークショップ」を運営する実行委員会を設立、実行委員会には**福島大学の学生と教職員**に加え、**環境省**や**他大学の教職員**も参加
- ・**学生が実行委員会の主体となって活動**(4年生…3人、2年生…1人)



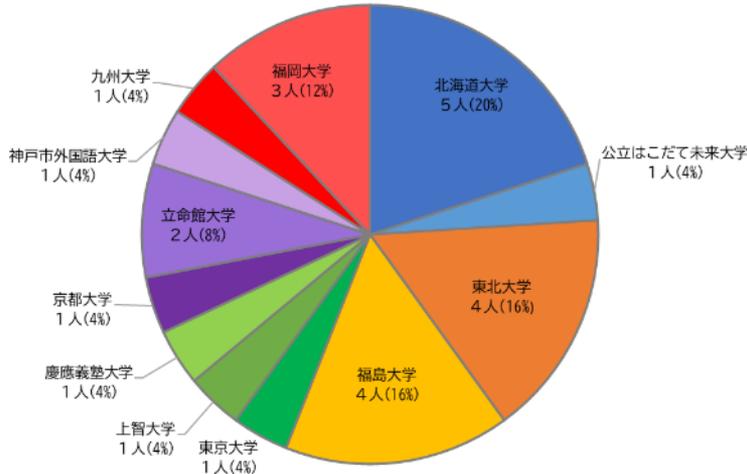
9月18日から22日(4泊5日)に全国各地の学生が参加する
「除染土処分に関する学生ワークショップ」を実施

参加学生

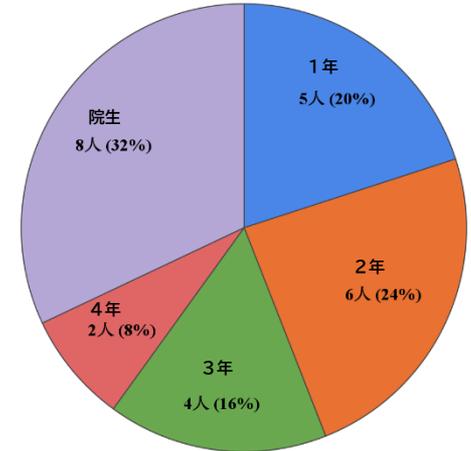


実行委員会の学生4名に加え、7都道府県12大学の学生25名(計29名)

参加学生の所属大学(実行委員会学生を除く)

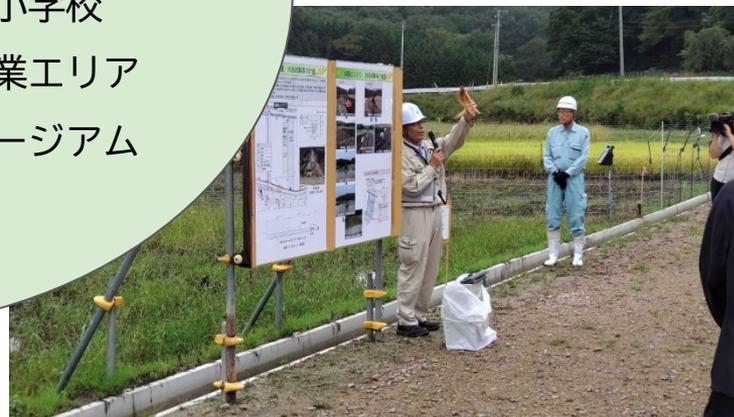


参加学生の学年(実行委員会学生を除く)



実行委員会の学生が募集チラシを作成
実行委員会と繋がりのある大学から学生を募集。

学生ワークショップ当日の様子 (FW)



～見学地～

東日本大震災・原子力災害伝承館

中間貯蔵施設

震災遺構・浪江町立請戸小学校

飯舘村長泥地区環境再生事業エリア

とみおかアーカイブ・ミュージアム

廃炉資料館

学生ワークショップ当日の様子（講演）



～講師～

- ・ 国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構
万福裕造上級研究員
- ・ 大熊町役場環境対策課
東裕行生活環境係長
- ・ 環境省：環境再生・資源循環局
戸ヶ崎康企画官
- ・ 国立環境研究所 大迫政浩フェロー
- ・ 福島大学 加賀谷環コーディネーター
- ・ 東京大学 公共政策大学院
堀史郎客員研究員
- ・ 福岡大学 工学部社会デザイン工学科
鈴木慎也教授

学生ワークショップ当日の様子（議論）

～議論のテーマ～

【1日目】

- ・「8000Bq/kg」を説明

【2日目】

- ・再生利用、最終処分について意見や考えを共有

【3日目】

- ・2045年までのスケジュール
- ・環境省との対話

【4、5日目】

- ・除染土の問題に対してできること



学生ワークショップ当日の様子（成果）

1班

ロードマップ

	再生利用	再生利用 & 最終処分	最終処分
① 入口	花壇プロジェクト	話題を増やす	
② 共感	福島を訪れるツアーの開催	福島の現状をCMで流す	
③ 知る	大学生主体でPR動画の作成	ワークショップの開催	

2班

04 アウトプット① 各主体ができること

模擬リスクコミュニケーション
あるリスクについてその関係者の間で情報を共有・意見交換すること。

関心ある国民

各自治体が住民とともに
「地元が最終処分の候補地になったら」を
自分ごととして考える機会を作る。

自治体

目的
地域の問題を議論する土台を作ること

3班

案1：サイエンスコミュニケーション

- 理解促進を通じた、円滑な社会的コミュニケーション
- 学生の「発信力・安心感」

学生が自身の居住地域で講演

費用を補助

受講学生：
近い立場から先入観なく理解できる

講演学生自身：
自分に合わせ理解し直す「学びほぐし」

4班

【修学旅行プラン】

除染土関連
ホープツーリズム

従来ホープツーリズム
+
ホープツーリズム型
修学旅行
+
その他文化等

自分の目で実際に見てもらおう

5班

寺子屋（対話学習）
公民館等で実施

親子コース
50分
小学生コースの内容
で親子でディスカッション

ふれあいコース
50分
地域のコミュニケーションの場
簡単な問いについて話し合ってもらおう

活動報告会概要

学生ワークショップ終了後、活動を継続するために班を再編成以降はオンラインツールなども活用し、下記の6班で活動

北海道班

新一班
(本州1班)

本州2班

東京班
(本州3班)

本州4班

九州班

<活動報告会>

学生ワークショップ後に各班が行った活動の成果を確認するため、12月15日(日)に活動報告会を実施



活動報告会には各種メディアが取材に参加しました
発表した班への質問もありました！

各班の活動紹介



【北海道班】

- ・北海道大学で開催される**サイエンスフェスタ**で展示会を実施。
- ・はこだて未来大学で参加した学生が講義の時間を用いて参加していない学生に発表を実施。

【新一班】

- ・**カードゲーム**を通じて除染土の問題に対して認知を広げる活動を実施。
- ・オンラインで開催可能な**オリジナルワークショップ**。

オリジナルワークショップ



これまでの議論で拳がった問題意識を踏まえて学生にできることを考えた。



フランス発祥の**クライメートフレスク**という環境問題に関するワークショップに着想を得て、オンラインで開催可能な

オリジナルワークショップ

各班の活動紹介

本州2班のワークショップ後の活動

【ワークショップ4班のアイデア】

除染土処分
×
ホープツーリズム

【マスコットキャラクターによる観光PR】

・ご当地キャラクター
・有名キャラと観光資源のコラボ
など



プロフェッサー.D

【本州2班の活動】
「除染土処分問題の発信」を目的としたマスコットキャラクターを考案し、「除染土処分×ツーリズム」をベースとしたマスコットキャラクター活用のアイデアを考える



セキレイちゃん

【本州2班】

- ・若年層や無関心層へのアプローチとして、**マスコットキャラクター**による理解醸成活動。
- ・「セキレイちゃん」「プロフェッサー.D」という2体のキャラクターを発案。

【東京班】

- ・除染土の話を含む福島震災について、**寺子屋形式の講演会**を提案。
- ・寺子屋での学習内容や学習形式など、細かい内容まで考案。

第1回（親子コース）

学生WS

寺子屋

各班の活動紹介



【本州4班】

- ・主に学生に向けて、除染土問題への**興味・関心につなげる動画**を作成。
- ・班員が登場人物となり、セリフには学生ならではの意見を取り入れることで、学生に寄り添った動画とした。

【九州班】

- ・**留学生**に対して東日本大震災や原発事故、除染土についての発表を行い、あわせて**ディスカッション**を実施。
- ・その後アンケートを通じて、留学生が震災や原発事故、除染土のことをどう感じたのか調査を実施。



留学生に向けた震災・除染土について考える会

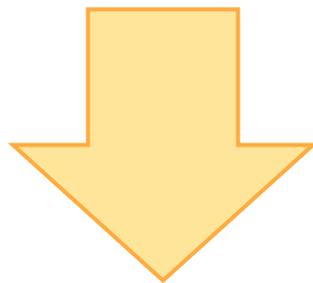
日時・場所
11月16日・福岡大学



参加者
福岡に留学に来ている高校生4名+引率者2名
(中国、インドネシア、マレーシア、ドミニカ共和国)

今年度の活動まとめ

目的：除染土について全国的な理解醸成を図る



全国12大学から29名の学生が福島県に集まり、共に学習。

「除染土処分」という1つの社会課題を通じて、**様々な立場の学生が協力し、各自が主体**となって活動。

メディア取材や各種イベントの参加を通じて、**学生の活動やアイデアを周知**。

次年度の活動目標

〈活動の継承〉

- ・ 次年度も今回のワークショップに参加した全国各地の学生と協働
- ・ 今年度のワークショップで学生が発案したアイデアを次年度に活用

〈活動の拡大〉

- ・ ワークショップの対象者の拡大
- ・ より多くの組織と協力し活動を実施



メディア案内

NHKの特集



NEWS WEB

福島 NEWS WEB

特集 全国の大学生「除染土最終処分」を考える

10月02日 22時54分

原発事故後の除染で出た大量の土や廃棄物、いわゆる「除染土」。2045年までに県外で最終処分をすることが法律で定められていますが、具体的な見通しは立っていません。



読売新聞の特集



読売新聞 オンライン

除染土処分学生が議論 全国から25人 中間貯蔵施設など見学も

2024/09/23 05:00

議論の成果を発表する学生（22日、大熊町で）

全国各地の学生25人が18日から22日にかけて県内に集まり、福島第一原発事故に伴う除染土の処分について考えを深めた。22日には、大熊町大川原の交流施設「Linker大熊」で、議論の成果を発表した。



実行委員会のInstagram



fukushima_jyosendo

投稿24件 フォロワー130人 フォロワー中121人

「除染土処分に関する学生WS」実行委員会
福島大学 協働プロジェクト学修「除染土処分に関する学生ワークショップ」の活動紹介や除染土に関する情報の発信を行います！
9月18日-9月22日に「除染土処分に関する学生ワークショップ」開催しました！...続きを読む

学生WS後の... 学生WS 2023年度活動... 新規

投稿 保存済み タグ付けされている人



@FUKUSHIMA_JYOSENDO